

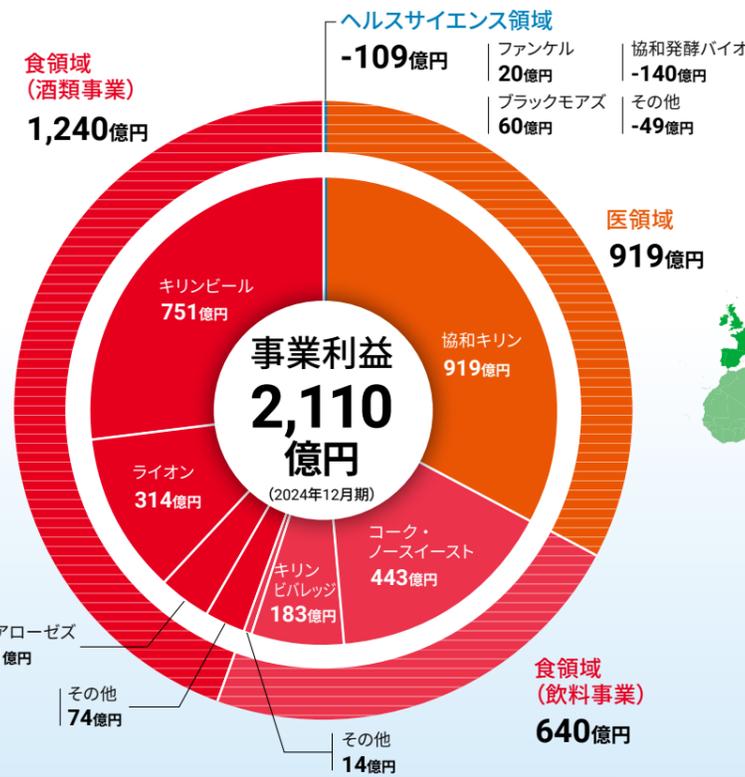
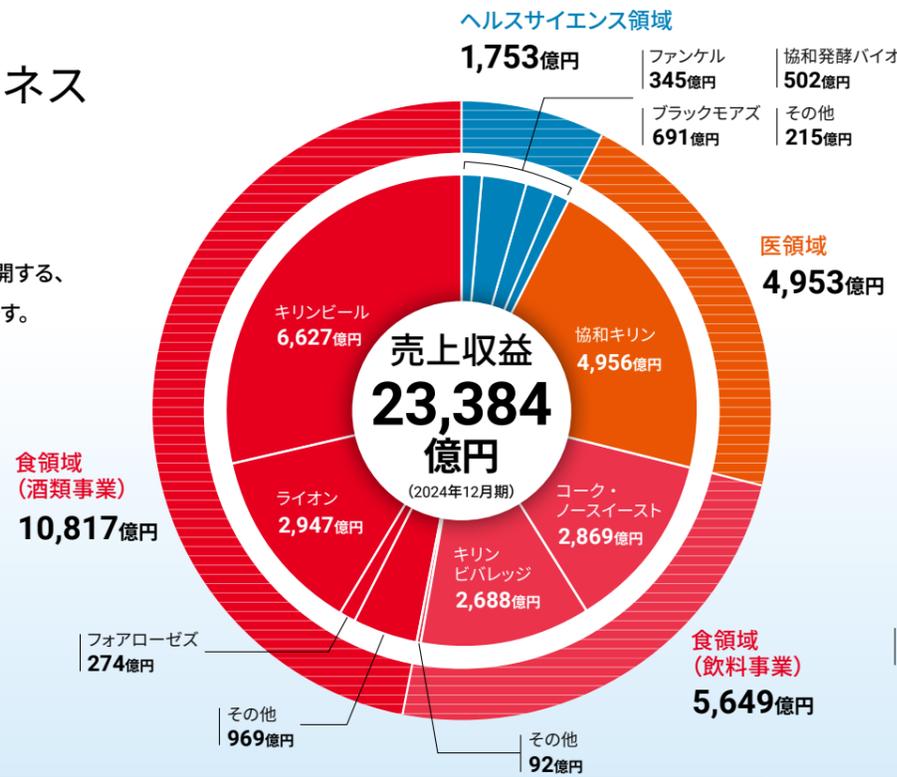
# 02 キリングループの概要

## キリングループのビジネス

キリングループは、祖業のビール事業を通じ、1世紀以上にわたって磨き続けてきた「発酵・バイオテクノロジー」を起点に、食・医・ヘルスサイエンスの3領域で事業を展開する、多様で盤石な事業ポートフォリオをもつ企業です。

キリンホールディングス株式会社  
Kirin Holdings Company, Limited

本社所在地 〒164-0001  
東京都中野区中野四丁目10番2号  
中野セントラルパークサウス  
代表取締役会長 CEO 最高経営責任者 磯崎 功典  
代表取締役社長 COO 最高執行責任者 南方 健志  
設立 1907年2月23日  
従業員数 1,067人(単独)、31,934人(連結)  
証券コード 2503(上場市場=東証プライム)  
連結子会社 177社  
持分法適用会社 28社  
(2024年12月31日時点)



キリングループの世界の拠点

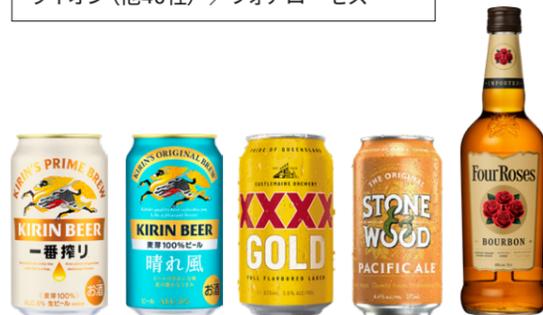


### 食領域 (酒類事業)

売上収益 **10,817 億円** 事業利益 **1,240 億円**

祖業であるビール事業を中心に、現在も基盤となる事業領域です。1990年代以降にはアジア・オセアニアを中心にグローバル展開を加速させ、高い付加価値を有するブランドを数多く製造・販売しています。

主要な子会社 キリンビール (他10社) / ライオン (他40社) / フォアローゼズ



### 食領域 (飲料事業)

売上収益 **5,649 億円** 事業利益 **640 億円**

主要な子会社 キリンビバレッジ (他10社) / コーク・ノースイースト



### 医領域

売上収益 **4,953 億円** 事業利益 **919 億円**

ビール製造で培った微生物・細胞の研究から発展した技術にバイオテクノロジーを掛け合わせ、1980年代に医薬品の研究開発を開始しました。今ではグループの主要事業にまで発展し、バイオ医薬品を中心としてグローバルに事業を展開しています。

主要な子会社 協和キリン (他55社)

アンメット・メディカルニーズを満す医薬品の提供



### ヘルスサイエンス領域

売上収益 **1,753 億円** 事業利益 **-109 億円**

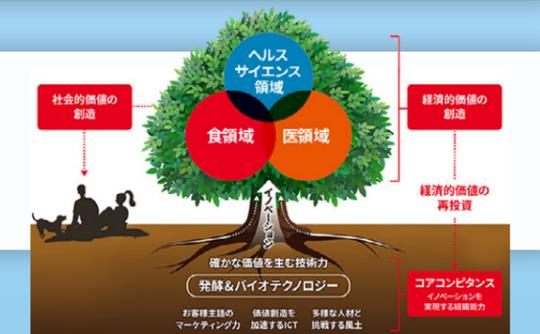
食領域における自然由来の原料や、発酵・培養の研究を進める中で、プラズマ乳酸菌をはじめとした身体に有用な物質を数多く発見してきました。これらの資産を活用し、今後のグループの成長の柱として育成していく事業領域です。

主要な子会社 ファンケル (他8社) / ブラックモアズ (他30社) / 協和発酵バイオ (他10社)



## 3つの領域全ての根底にある「発酵・バイオテクノロジー」

ビール醸造から生まれた発酵・培養を制御する技術は、バイオテクノロジーとの融合によって、乳酸菌をはじめとするさまざまな微生物の培養に応用され、ヘルスサイエンス領域におけるさまざまな有用物質(機能性物質)の発見・抽出につながっています。さらに、医薬事業における動物細胞やヒト細胞の培養にも活用され、グループの技術力の基盤となっています。



# 事業発展の歴史

## 1907-1980

麒麟麦酒創業から  
食領域において  
事業を拡大

## 1981-2005

多角化を推進  
医とヘルスサイエンスへ  
事業領域を拡大

## 2006-2015

グローバルで  
飛躍を目指し  
積極的なM&Aを実施

## 2016-2018

構造改革による  
グループの  
再生・再編

## 2019-

新たな成長を目指し  
世界のCSV先進企業へ

社会の動き  
会社全体の  
動き

- 1923 関東大震災で横浜山手工場が被災。横浜生麦へ移転(現・キリンビール横浜工場)
- 1975 長期経営構想「昭和50年度構造計画」策定

- 1981 「長期経営ビジョン」策定

- 2006 長期経営構想キリン・グループ・ビジョン2015 (KV2015) を策定
- 2011 東日本大震災の被災地支援を契機に、CSVを経営に取り入れ始める
- 2012 長期経営構想キリン・グループ・ビジョン2021 (KV2021) を策定
- 2013 日本で最初のCSVを専門とする部署を立ち上げ

- 2016 新長期経営構想キリン・グループ・ビジョン2021 (新KV2021) に改定

長期経営構想新キリン・グループ・ビジョン2021 (新KV2021)

2016年  
中計

- 2019 長期経営構想キリングループ・ビジョン2027 (KV2027) 策定
- 2019 キリングループCSVパーパス策定
- 2019 ヘルスサイエンス事業部新設

長期経営構想キリングループ・ビジョン2027 (KV2027)

2019年  
中計

2022年  
中計

2025年  
計画

食領域  
Since 1907

- 1885 ジャパン・ブルワリー・カンパニー設立
- 1888 「キリンビール」発売
- 1907 麒麟麦酒株式会社創立(現・キリンホールディングス株式会社)
- 1928 「キリンレモン」発売
- 1943 麒麟麦酒、麒麟科学研究所(現・キリンホールディングス株式会社キリン中央研究所など)開設
- 1963 自動販売サービス株式会社(現・キリンビレッジ株式会社)設立
- 1972 キリン・シーグラム株式会社(現・キリンディステラリー株式会社)設立
- 1976 小岩井乳業株式会社設立
- 1977 米国・KW Inc.(現・Coca-Cola Beverages Northeast, Inc.)設立



医領域  
Since 1982

- 1983 株式会社キリンシティ(現・キリンシティ株式会社)設立
- 1998 オーストラリア・Lion Nathan Limited(現・Lion Pty Ltd)に資本参加
- 2002 米国・Four Roses Distillery, LLCの事業権を取得
- 2002 フィリピン・San Miguel Corporationに資本参加



- 2006 メルシャン株式会社を連結子会社化



- 2017 ブラジルキリン株式譲渡完了



- 2020 New Belgium Brewing Company, Inc.を完全子会社化
- 2021 Lion-Dairy&Drinks 株式譲渡完了
- 2021 Fermentum Pty Ltdを完全子会社化
- 2022 Bell's Brewery Inc.を完全子会社化 ※2023年12月にNew Belgium Brewing Company, Inc.が吸収合併
- 2022 華潤麒麟飲料(大中華)有限公司 株式譲渡完了
- 2023 Myanmar Brewery Limited 株式譲渡完了

- 1982 キリンビール研究開発部を新設し医領域の研究開発を開始
- 1984 キリン・アムジェン社設立
- 1990 腎性貧血治療剤「エスポー」(EPO製剤)を発売



- 2007 キリンファーマ株式会社設立
- 2008 協和発酵キリン株式会社(現・協和キリン株式会社)発足



- 2018 グローバル戦略品である「クリスピータ」「ポテリジオ」の欧米での販売を開始



- 2023 「クリスピータ」の北米自社販売を開始
- 2024 Orchard Therapeutics plc(現・Orchard Therapeutics Limited)を完全子会社化
- 2024 Kura Oncologyとの提携

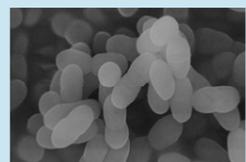


ヘルス  
サイエンス  
領域  
Since 1983

- 1983 キリンビール事業開発部健康食品チーム発足
- 1983 ビール酵母栄養食品「リフレ」発売
- 1988 「ラホヤアレルギー免疫研究所(現ラホヤ免疫研究所)」の設立を支援
- 2002 KW乳酸菌を発見



- 2008 協和発酵バイオ株式会社設立
- 2010 乳酸菌L.ラクトイス プラズマ(プラズマ乳酸菌)を発見



- 2017 「iMUSE」発売



- 2019 株式会社ファンケルに資本参加
- 2020 「iMUSE」が免疫で日本初<sup>®</sup>の機能性表示食品として届出受理 ※免疫機能の機能性表示食品として届出公表された日本初のブランド
- 2023 Blackmores Limitedを完全子会社化
- 2024 協和発酵バイオ株式会社 アミノ酸事業等の譲渡合意
- 2024 株式会社ファンケルを連結子会社化



## 企業方針

### グループ経営理念

社会における永続的、  
長期的なキリンの存在意義

キリングループは、  
自然と人を見つめるものづくりで、  
「食と健康」の新たなよこびを広げ、  
こころ豊かな  
社会の実現に貢献します

お客様の求めるものを見すえ、自然のも  
つ力を最大限に引き出し、それらを確認  
なかつたとして生み出していくモノづくり  
の技術。私たちは、こうした技術によって、  
お客様の期待にお応えする高い品質を追  
求してきました。これからも、「夢」と「志」  
をもって新しいよこびにつながる「食と  
健康」のスタイルを一步進んで提案し、世  
界の人々の健康・楽しさ・快適さに貢献  
していきます。

### “One KIRIN” Values

キリングループの一員として  
大切に考える考え方、気持ち

熱意・誠意・多様性  
〈Passion. Integrity.  
Diversity.〉

▶**熱意** 自由な発想で、進んで新しい価  
値をお客様・社会に提案することへの我々  
の熱い意志。会社やブランドに誇りを持ち、  
目標をやりきる熱い気持ち

▶**誠意** ステークホルダーの皆さまのおか  
げでキリングループは存在しているとい  
うことへの感謝の気持ち、謙虚な気持ちで  
確かな価値を提供し、ステークホルダー  
に貢献するという誠実さ

▶**多様性** 個々の価値観や視点の違いを  
認め合い、尊重する気持ち。社内外を問  
わない建設的な議論により、「違い」が世  
界を変える力、より良い方法を生み出す力  
に変わるという信念

### コーポレートスローガン

お客様や社会からみたキリンの存在意義を  
シンプルに表現したもの

よろこびがつなぐ世界へ



## 財務・非財務ハイライト

### 財務指標

ROIC

4.1%

2025年予想 → 7.2%

EPS

172円\*

2025年予想 → 185円

※2024年までの実績については、従来の平準化当期  
利益の計算方法で算出  
・平準化EPS=平準化当期利益/期中平均株式数  
・平準化当期利益=親会社の所有者に帰属する当期  
利益±税金等調整後その他の営業収益・費用等  
2025年から平準化しないEPSを採用する

### 非財務指標

■ GHG排出量の算定根拠についてはP97参照

環境 気候変動

GHG削減率

(Scope1+2の合計) (2019年比)

34%

2025年目標 → 28%

2030年目標 → 50%

環境 容器包装

PETボトル用樹脂の  
リサイクル樹脂使用率※1

36%

2025年目標 → 40%

2027年目標 → 50%

環境 水資源

水ストレスが高い製造拠点における  
水使用原単位※2

3.1 kl/kl ライオン  
(Lion)

2025年目標 → 2.4L/L未満

2027年目標 → 2.4L/L未満

健康 中期ヘルスサイエンス戦略進捗

「免疫機能の維持支援」達成度

日本国内の  
プラズマ乳酸菌機能認知率※3

プラズマ乳酸菌の継続摂取人数※4

30%

78万人

従業員 組織風土

従業員エンゲージメントスコア※5

71

2025年目標 → 72

2027年目標 → 75

従業員 多様性

「多様性向上」達成度

日本国内 女性経営職比率※6

日本国内 キャリア採用比率※7,8

15.9%

42.9%

2025年目標 → 18%

2030年目標 → 30%

従業員 労働安全衛生

休業災害度数率※9

0.97

2030年目標 → 0.1

※1 キリンビール、キリンビバレッジ、メルシャンの3社で製品の包装に使用したPET樹脂を算定対象としています。  
※2 水ストレスが高い製造拠点とは、Aquaduct (国際環境NGOの世界資源研究所 (WRI) が公表している、世界各地の干ばつ・洪水などの  
リスクを地図上で確認するツール) のWater stressとWRFのBaseline Water Depletionを基に当社が定義した工場であり、対象工場は、  
Tooheys Brewery/James Boag Brewery/CastlemainePerkins の3拠点です。  
※3 2025年より目標項目を「グループのヘルスサイエンス商品を通じ与えた社会的インパクト (2025年目標→1億2,500万人)」に変更  
※4 2025年より構成指標を「免疫市場規模拡大への貢献度 (プラズマ乳酸菌) (2025年目標→245万人)」に変更  
※5 2025年より構成指標を「CSVの実践スコア (2025年目標→72)」に変更。グループ内で生産・物流機能を有する主要なグループ会社を対  
象とします。工場内のパートナー会社も含まれます。  
※6 日本国内の女性経営職比率の集計対象は、キリンホールディングス株式会社原籍社員としています。ただし、執行役員および再雇用者は  
含まれません。当社では経営職を、他の民間企業で用いられている管理職 (労働者を指揮し、組織の運営に当たる者) などの呼び方と同程  
度の職位と定義しています。  
※7 2025年より構成指標を「LTIRスコア (2025年目標→2.50)」に変更  
※8 日本国内のキャリア採用比率の集計対象は、キリンホールディングス株式会社原籍社員としています。ただし、再雇用者は含まれません。  
※9 2025年より構成指標を「プレゼンティーズム (2025年目標→63.6%)」に変更

(2024年実績)

### 持続的成長のための経営課題「グループ・マテリアリティ・マトリックス」(GMM)

■ P.21

社会とともに、持続的に存続・発展していく上での重要テーマ 適時、再評価し改訂

### 長期経営構想

キリングループ・ビジョン2027 (KV2027)

■ P.34

2027年までに「食から医にわたる領域で価値を創造し世界の  
CSV先進企業となる」を実現するための戦略。戦略の枠組み

### CSVパーパス

■ P.21

KV2027の長期非財務目標として、社会と価値を共創し持続的  
に成長するための指針。特に、健康、コミュニティ、環境、酒類  
事業を営むキリングループとしての責任の4つの分野に注力する

### キリングループ 年度事業計画

■ P.36~39

長期経営構想を達成するためのより具体的な戦略。  
毎年改訂



### CSVコミットメント

■ P.88~95

CSVパーパスの実現に向けたアクションプラン。  
原則、毎年3年分アップデート